

防災まちづくりの疑問？はてな？

◆人とのふれあい大切に◆



8年前の阪神・淡路大震災では、人々の助け合いによって地震から約9時間で約11,000人の住民全員の安否を確認できた町があるそうです。

私たちの家族をはじめとして、近隣、さらに町会の方々と日頃のふれあいが、いざというときに地域住民の尊い命を救うことへとつながっていきます。災害時に地元企業の方々と協力体制ができ、

重機や備蓄食料が提供されることになっている地域もあります。いざという時にみんなで助け合えるように、日々人とのふれあいを大切にしていくことが必要です。家族との災害時の連絡方法や、集合場所などを、夕飯の団らんを利用しながら話し合っていますか？

我が家でできる防災対策(その⑤)

◆あなたの部屋は大丈夫？「生きる準備」していますか？◆

大きな災害が起こると避難することになっていますが、その前に家の中で家具が倒れてけがをしたりしては話になりません。家の構造が安全でも、例えば食器棚が倒れると、破片が散乱して歩けなくなります。みなさんも自宅の部屋や廊下を確認してください。



○寝室に大きな家具はありませんか？(→倒れると寝ている体を圧迫します。)

背の低い家具にするか、倒れても安全な場所をつくってください。)

○重いものを部屋の高いところに置いていませんか？(→テレビでも飛んで来ます。)

○家具は天井や壁に固定していますか？(→柱など構造部材に固定しないと揺れて器具が外れます。固定器具はホームセンターなどで入手できます。)

○ドアの近くに重い家具を置いていませんか？(→冷蔵庫など重くて背の低いものはズルズルと移動してドアをふさぎます。)

○非常持ち出し品は安全な場所に置いていますか？(→偏愛していても使えないと無意味です。)

編集後記

会員の皆さんから色々な提案や意見が多く出るようになりました。これからこの会を続けるために、地区の多くの方々に、安心なまちづくりを学んで、伝えることをめざしています。

このまちづくりニュースの発行は、地域の皆さんに、会で行っている内容をお知らせするものですが、その他のイベント(防災まちづくりフェア)などにも是非来て下さい。(め)



大森中・蒲田・荻谷地区

防災まちづくりの会 構成団体

左記の団体からの代表と公募住民の5名
の会員で活動しています。

川崎市議会	東浦田二丁目町会
大森山自治会	南浦田二丁目町会
大森町自治会	南浦田三丁目町会
本宿町会	新堀東町会
大森中八幡自治会	
北荻谷一丁目町会	大森第一小学校PTA
西荻谷二丁目町会	北荻谷小学校PTA
西荻谷三丁目町会	荻谷小学校PTA
西荻谷四丁目町会	東浦田小学校PTA
大森居中央町会	南浦田小学校PTA
東浦田一丁目町会	大森東中学校PTA
東浦田二丁目町会	荻谷中学校PTA
	公勢住民

大森中・蒲田・荻谷地区 防災まちづくりニュース NO 11

平成15年11月

大森中地区 防災生活圏促進事業

編集：大森中・蒲田・荻谷地区防災まちづくりの会

発行：大田区 まちづくり推進部 まちづくり課 TEL.5744-1338

「都市を襲う巨大地震」

前回、私たちを襲った関東大震災から今年でちょうど80年です。しかし、今年も東北地方で一連の地震をはじめ、9月の十勝沖地震など、各地で地震が続いています。

今回は、7月26日に震度6強の地震に襲われた宮城県北部の被災地の8日後の様子を紹介します。

民家の被害は応急処置をしたままで、倒れたブロック塀は処理され、瓦が落ちた屋根にビニールシートをかぶせている程度でした。

倒壊したブロック塀や、散乱した窓ガラス、倒壊寸前の建物や、ほぼすべての住宅にできた壁の亀裂を見て、身の回りに起こる災害時の恐ろしさを改めて知りました。また、余震も続く中、ようやく始まった民家の片づけの状態を見て、災害後の生活再建の難しさも実感しました。

家具の転倒防止や家の耐震補強、生け垣の整備など、住民一人一人の事前の取り組みで、大地震時の最悪の事態を回避できることを忘れてはいけません。



基礎が崩れて使用不能になった町工場



倒壊したブロック塀、25年前の宮城県沖地震ではこれで多くの子どもが犠牲になりました

ごあいさつ

大森中・蒲田・荻谷地区
防災まちづくりの会
副会長 平林 勲

当会の活動も4年目を迎え、様々な活動の中で新たな発見や意見が交わされてまいりました。いままでの活動を、皆さんとともに、さらに目にうつる形に、残るものへつなげていきたいと思っています。

会のマークができました！

ついに当会のマークができました。「三角」形をなしている私たちの3地区で防災まちづくりに「参画」する思いを込めて「さんかく隊」としました。今後、ポスターやニュースの他、防災まちづくりフェア(詳細次頁)ではのぼりも登場します。お楽しみに！



防災まちづくりフェアを開催します

今年もまた大会主催による「大森中・蒲田・稲谷地区防災まちづくりフェア」を開催します。当フェアも4回目を迎え、会の活動報告に加えて、災害に対する心構えや、災害発生時に身を守る基本について考えます。

また、児童館を通じて募集した「防災まちづくりポスター展」、期限切れ間近の備蓄食品のおいしい食べ方などに取組みます。たくさんのご来場をお待ちしております。

第4回 大森中・蒲田・稲谷地区 防災まちづくりフェア

11月29日(土)

12:30 開場 13:00 開始

(15:30 終了予定)

会場 東蒲小学校

※雨天の場合は内容を一部変更します。

参加
無料

◇当会の活動報告 13:05~13:10

◇講演

「わたしのまちはどうなるの？」

災害シミュレーション 13:10~13:45

宇治田 和(ランドブレイン(株))

大地震がおこったときのまちの様子を見て、被害を減らし逃げないですむまちづくりを考えます。



簡単クッキング・備蓄食品を おいしく食べてみませんか

家庭科室 14:00 から

期限切れ間近の備蓄食品のおいしい食べ方を考えます(調理・試食体験)。

児童防災まちづくりポスター展

校舎1階廊下

「防災まちづくり」をテーマに、児童の皆さんにポスターを描いていただきました。

建替え相談会

体育館 14:00 から

建替えの進め方(設計、助成制度など)を、一級建築士のかたに相談できます。

大災害にそなえて!

自分の身を守ろう!

校庭 14:00 から

大災害時の一連の活動を体験します。

《メニュー》

★起震車で地震体験

★煙ハウスで避難体験

★119番への通報のしかた

★消火器の使い方

★投てき水パックで消火体験

★ロープや三角巾の使い方



このほか、いろいろあります。
参加賞、景品もあるよ!!

蒲田地区タウンウォッチングを行いました

去る8月23(土)の午前中、蒲田地区のタウンウォッチングを行いました。これは西稲谷地区、大森中地区に引き続き、自分たちのまちを歩いて、まちづくりにいかしていこうというもので、普段何気なく自転車や徒歩で通るまちなみを、約2キロまわりました。

見慣れた風景も、防災の視点を持ってあるいてみると、様々なものが見えてきます。「こんなところに電信柱があった。」「新築時にセットバックされていた。」「ここは火災時に消防自動車を通れるか?」など疑問や意見が交わされました。



住宅はセットバックしていても、電柱はもとのままの場所がありました。



狭い路地の奥に住宅が密集しているところがありました。



製麺所で災害時の協力体制についてお話を伺いました。



出発地に戻って、見てきたことを確認し、私たちで取り組めることを議論しました。



東蒲田二丁目公園には防火水槽がありましたが、無法駐輪の自転車で取り囲まれていました。

タウンウォッチングで感じたこと

狭あい道路などについて

- ・幅4mの道路でも、電柱が残っているのでも有効幅員が3mしかなかった。
- ・以前は地物があったところに、互いに土地を譲り合って道路が広がっていた。
- ・自動車も通れず、引っ越しにも困りそう。
- ・狭い私道が入り込み、災害時の危険を感じた。

一時集合場所など

- ・公園の防災倉庫だけでなく、神社の御褒倉庫にも防災関係で利用できる品物の備蓄があった。
- ・自転車の無法駐輪が目についた。
- ・呑川沿いの公園は、川の水が使えるので火災時に役立ちそう。

地元の交流、周知

- ・製麺所の災害時の食料提供は地域の人が安心するだろう。
- ・小学校にも当会のポスターがあった。
- ・新しい住宅に入居した人々にどうやってコミュニティに入ってもらうかを検討しないといけない。

主な視察内容

- ・一時集合場所(東蒲田二丁目公園、北野神社など)
- ・道路(狭あい道路、隅切り、呑川沿いなど)
- ・住宅が密集したところ
- ・災害時に協力体制がある製麺所